

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 16 章 1～13 節 >

1 二つの「ある金持ち」(16:1, 19)の話。まず弟子たちに語られた話。

難解な話です。それを解く鍵は、「ある金持ち」で共通する二つの例え話の一つ目だということです（二つ目の話は 19 節以下）。一つ目の話は弟子たちに向けて語られ（「弟子たちにも」(1)）、二つ目の話は「金に執着するファリサイ人」(14)に向けて語られています。また、どちらの例え話もお金の使い方が関係していることが大事な共通点です。

2 読む焦点を間違えると分からなくなる話。大事なのは 9 節の内容。

しかし、それにしても、主人の財産を「無駄遣いする」(1、15:13 と同じ)「不正な管理人」(8)が、「抜け目のないやり方」(8、12:42 では「賢い管理人」といい意味での訳)で、「不正にまみれた富で友達を作りなさい」(9)と語られていくと悪い印象しか持てず、戸惑ってしまいます。しかし、「不正にまみれた富で友達を作りなさい」は、「そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる」に続いて行く言葉であり、イエス様はこのような言い方までして、「この世のことより、その先に待つ神の国に入れられることを考えなさい」と教えておられるのだということが分かります。そしてさらに、この 16 章では、この世で持ったお金の使い方について語られているのです（次の 19 節以下の例え話と合わせ読むとそれがより分かる！ また、26 日の特別伝道日礼拝の個所でも）。神様はそれをどう用いることを望んでおられるか（これまでのことより、これからのこと）、その点にこそ、焦点を絞ってこの個所を読まなければならないのです（信仰者となった私の両親に与えられた恵みを一つ具体的にお話しします）。